

三鷹地区中高一貫6年制学校基本計画検討委員会

報 告 書

平成19年3月

東京都教育委員会

はしがき

本書は、平成19年1月、三鷹地区中高一貫6年制学校基本計画検討委員会における検討結果を取りまとめて東京都教育委員会教育長に報告を行い、平成19年3月22日開催の東京都教育委員会定例会に報告後、公表されたものを、関係各位の参考に供するために発行するものです。

広く御活用いただければ幸いです。

平成19年3月

東京都教育庁学務部

目 次

第1章 中高一貫6年制学校の設置	P 1
1 中高一貫教育の制度化と国の動向等	P 1
2 東京都における検討経過	P 1
3 「新たな実施計画」の策定	P 2
4 都立中高一貫教育校の設置	P 2
第2章 三鷹地区中高一貫6年制学校の設置	P 3
1 設置の基本的枠組	P 3
2 基本理念、学校像、教育目標、育てたい生徒像	P 3
第3章 三鷹地区中高一貫6年制学校の教育課程	P 5
1 教育課程編成の基本方針	P 5
2 特色ある教育活動	P 6
3 教科等の指導の展開	P10
特色ある教育活動のイメージ図	P19
* 6年間を通じた特色ある教育活動の例	P20
第4章 三鷹地区中高一貫6年制学校の施設・設備の整備	P 22
【参考資料】	P 23

第1章 中高一貫6年制学校の設置

1 中高一貫教育の制度化と国の動向等

平成9年6月の中央教育審議会答申を受け、中等教育の一層の多様化を推進し、生徒一人一人の個性をより重視する教育の実現を目指した学校教育法等の改正が行われた。これにより、平成11年4月から、従来の中学校・高等学校の制度に加えて、中等教育学校、併設型、連携型の三つの形態による6年間の中高一貫教育を設置者の判断により選択的に導入することが可能となった。

公立中高一貫教育校の全国における整備状況をみると、当初は、連携型が中心であったが、近年では併設型も増加傾向である。

(参考) 全国での設置校数(平成18年度)

	国立	公立	私立	合計
中等教育学校	2	15	10	27
併設型	1	42	51	94
連携型	0	75	1	76
合計	3	132	62	197

2 東京都における検討経過

東京都教育委員会では、平成11年4月、「中高一貫教育検討委員会報告書」において、都立の中等教育学校の基本構想をまとめた。この基本構想を踏まえて、平成11年10月に策定された「都立高校改革推進計画・第二次実施計画」において、パイロットスクールとして都立大学附属高校を改編し、中等教育学校を設置することとした。

その後、平成13年になって、「都立高校に関する都民意識調査」が実施され、10月に調査結果が公表された。同調査によると、公立の中高一貫教育校の必要性について、「都立高校の半分程度」、「半分程度の区市町村に設置」、「都全体で10校程度以上、中高一貫教育校が必要である」との回答の合計が56.2%となり、「都全体で2校」の3.3%や「必要ない」の12.3%を大きく上回り、公立中高一貫教育校を一定数以上整備する事に対する都民の期待の大きさが明らかになった。また、必要だと考える中高一貫教育校のタイプについては、「幅広い教養の獲得」が最も多く、「進学に必要な学力の習得」、「外国語や国際的素養の習得」、「志や感性の育成」などが続いた。

東京都内では、東京大学教育学部附属中等教育学校のほか、国立大学附属学校や多くの私立学校において、実質的な中高一貫教育が行われている。こうした中で、前述の都民意識調査の結果や中高一貫教育を巡る国及び他県の動向等を踏まえ、公立学校においても中等教育を複線化していくことが必要であるとの考え方のもと、東京都教育委員会では、平成13年10月に「中高一貫教育校の整備に関する検討委員会」を設置し、東京都における公立中高一貫教育校の整備の在り方について検討を行い、翌14年4月に最終報告を取りまとめた。

3 「新たな実施計画」の策定

同検討委員会報告の内容を踏まえ、平成14年10月に決定された「都立高校改革推進計画・新たな実施計画」においては、これまでのパイロットスクールとしての設置という計画から踏み込み、生徒の通学時間や地域バランス等を考慮し、既定計画による分も含めて、平成17年度から22年度までの間に、合計で10校の中等教育学校及び併設型中高一貫教育校を設置することとした。

これらの学校は、6年間一貫の継続教育の中で、教養教育を行い、社会の様々な場面、分野において人々の信頼を得てリーダーとなり得る人材を育成していくことを設置のねらいとしている。また、教養教育を重視しながら、それぞれの学校の特色化を図っていくこととしている。

☆都立高校改革推進計画に基づく中高一貫6年制学校の設置計画

① 第二次実施計画

	開校予定年度	対象校
桜修館中等教育学校 (目黒地区中等教育学校)	平成18年度	都立大学附属高校

② 新たな実施計画

	開校予定年度	対象校
白鷗高等学校・白鷗高等学校附属中学校 (台東地区中高一貫6年制学校)	平成17年度	白鷗高校
小石川中等教育学校 (文京地区中高一貫6年制学校)	平成18年度	小石川高校
両国高等学校・両国高等学校附属中学校 (墨田地区中高一貫6年制学校)	平成18年度	両国高校
立川地区中高一貫6年制学校 (国際中等教育学校)	平成20年度	北多摩高校
武蔵野地区中高一貫6年制学校	平成20年度	武蔵高校
中野地区中高一貫6年制学校	平成22年度	富士高校
練馬地区中高一貫6年制学校	平成22年度	大泉高校
八王子地区中高一貫6年制学校	平成22年度	南多摩高校
三鷹地区中高一貫6年制学校	平成22年度	三鷹高校

*中高一貫6年制学校とは、中等教育学校又は併設型中高一貫教育校をいう。

4 都立中高一貫教育校の設置

平成17年4月には、都立白鷗高等学校附属中学校(台東地区中高一貫6年制学校)が新設され、初年度の入学者決定では、一般枠での応募倍率が14.26倍という高倍率となった。

平成18年4月には、桜修館中等教育学校、小石川中等教育学校、両国高等学校附属中学校の3校に加え、千代田区立九段中等教育学校の計4校が設置された。

第2章 三鷹地区中高一貫6年制学校の設置

1 設置の基本的枠組

(1) 設置

都立三鷹高等学校全日制課程を改編し、同校の伝統及びこれまでの教育実績を踏まえた中高一貫教育校として設置する。

(2) 設置場所等

都立三鷹高等学校の敷地内に設置する。

(3) 設置形態

中等教育学校とする。

(4) 後期課程の課程、学科

全日制課程の普通科とする。

(5) 学期

3学期制とする。

(6) 学校規模

24学級（960人）の規模を想定する。

(7) 開校予定年度

平成22年度の開校（1年生の受け入れ開始）予定とする。

2 基本理念、学校像、教育目標、育てたい生徒像

「中高一貫教育校の整備に関する検討委員会報告書」を踏まえつつ、都立三鷹高等学校の伝統やこれまでの教育実績を考慮した。

(1) 基本理念

思いやり・人間愛（ヒューマニティ）を持った社会的リーダーの育成

(2) 学校像

6年間の一貫した教育を通して、自分のことだけを考えるのではなく、他者に対して思いやることのできる心を育て、人間性豊かな社会を構築する社会的リーダーの育成を図る。

① 将来の日本を担う生徒を育てる学校

高い倫理観を持って自他の基本的人権を尊重する思いやりの心を持ち、平和で人間性豊かな社会を構築する人材を育成する。

- ② 高い見識と幅広い視野を培う学校
的確な判断力や先見性を高めるために、全ての学習活動を通して、より深く広い高度な学力を習得し、高い見識と幅広い視野を培う。
 - ③ 思いやりの心を持った豊かな人間性を培う学校
他者との関わりを大切にするため、特に学級（ホームルーム）活動、生徒会活動、学校行事、部活動、ボランティア活動や地域との連携を積極的に行い、思いやりの心を持った豊かな人間性を培う。
 - ④ 中高一貫教育校として、6年間の体系的な教育課程を実践する学校
中学校と高等学校の指導内容の重複部分を精選し、発達段階に応じた体系的な教育課程を編成することにより、より高次元の知識や論理を習得させる。
- (3) 教育目標
社会的リーダーとしての資質を持つ生徒を育成するため、次の教育目標を定める。
- ① 互いの基本的人権を尊重し、思いやりの心を持った豊かな人間性を養う。
 - ② 高い見識と幅広い視野を培う。
 - ③ 自立と共生の精神を養う。
- (4) 育てたい生徒像
- ① 社会の一員としての自覚を持ち、「道徳」、「総合的な学習の時間」等を通して高い倫理観を培うとともに、ボランティア活動への積極的な参加や地域との交流を通し、思いやりの心を持った社会的リーダーを目指す生徒
 - ② 高い見識を得るための学習活動と、豊かな人間性を得るための特別活動・部活動等の両立を目指し、限界までチャレンジする生徒
 - ③ 幅広い視野を持ち、総合的な能力を育てるため、理系、文系にかかわらずすべての教科を意欲的に学習する生徒
 - ④ 自己の資質をより一層向上させることのできる進路を実現するために、高い目標を持ち最後まで努力する生徒
 - ⑤ すべての面において自主的、意欲的に取り組み、自分の意見を明確に表現するとともに、他者の意見を謙虚に受け止めることのできる生徒

第3章 三鷹地区中高一貫6年制学校の教育課程

三鷹地区中高一貫6年制学校の教育課程の編成に当たっては、「中高一貫教育校の整備に関する検討委員会報告書」に示された教養教育についての考え方及び第2章に示した教育理念を踏まえ、中等教育型中高一貫6年制学校として、以下の特性を考慮した。なお、小・中一貫教育校を推進している三鷹市の現状を踏まえ、学校の設置準備を進めるにあたっては、三鷹市と十分意見交換を行っていくとともに、設置後も十分な連携を図っていく。

- ① 6年間の一貫した体系的な教育課程の特例を活用し、前期課程（中学校）と後期課程（高等学校）の教育内容の重複している部分を精選し、発展的な内容やより深化した内容を積極的に取り扱うなど、6年間の体系的な教育課程を編成することにより、教育内容、方法の一貫性を図る。
- ② 高い見識、幅広い視野を^{かんよう}涵養するため、学習の根底に流れる理念、理論の定着を重視した教育を行うため、前期課程での各教科の基礎・基本の確実な定着と後期課程での応用・発展に深化させる学習及び、体験的活動、観察、実験、実習等を積極的に取り入れた学習活動を展開する。
- ③ 教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等、教育活動全体を、横断的に、有機的に関連させ、地域との連携を図りながら、高い倫理観、思いやりの心をもった豊かな人間性を育成する教育課程を編成する。

1 教育課程編成の基本方針

(1) 6年間を通じた教育課程の編成

前期課程（中学校）と後期課程（高等学校）の6年間を通じた系統的、発展的な指導を行い、教科教育を充実させる。

(2) 高い見識と幅広い視野を^{かんよう}涵養する教育の展開

- ① すべての学習における、論理的な思考の根幹を担う日本語の基礎・基本を重視し定着・伸張させる。
- ② 6年間の学習内容の編成・組み立てを工夫し、指導内容の系統化を図り、教科・科目の学習を充実させる。
- ③ すべての学習における、基礎・基本を徹底して定着させ、思考力を育成した上で、発展的な内容、深化した内容を積極的に編成し、知的好奇心に訴える、高いレベルの学習に取り組ませる。
- ④ 生徒の発達段階に応じた、観察、実験、実習、見学等の体験的な学習を積極的に取り入れる。
- ⑤ 幅広い視点や豊かな見識を^{かんよう}涵養するため、文系・理系にかかわらず、すべての教科

を高いレベルで習得できるよう各教科で内容を精選し学習させる。

(3) 高い倫理観、豊かな人間性をもった生徒の育成

- ① 「道徳」、「総合的な学習の時間」を中心にボランティア体験、奉仕体験活動を有機的に編成し、ボランティア精神や人間愛に通じる人を思いやる心をはぐくむと同時に、特色ある教科、科目や「各教科」教育活動全体を通して、高い倫理観と自他の基本的人権を尊重する生徒を育成する。
- ② 異年齢集団による学校行事や、生徒会活動、委員会活動、部活動、地域との連携を通して、社会性、協調性、リーダーシップを身に付け、他者への配慮や思いやりの心をもった生徒を育成する。

(4) 進路希望実現に向けてのキャリア教育の展開

- ① 「総合的な学習の時間」を柱として、自己の将来の在り方、生き方を見据えた、6年間の計画的・継続的な進路指導を通し、自己実現に向けた目的意識をもった指導を行う。
- ② 職場体験や職業調べ、進路講演会を通して、望ましい勤労観・職業観を育成する。

(5) 学習を充実させるための指導方法・形態の工夫

- ① 6年間を「2-2-2」の3つのステージに分割し、第1・2学年を「ファーストステージ」（基礎学力養成期）、第3・4学年を「セカンドステージ」（活動実践期）、第5・6学年を「サードステージ」（発展応用期）（仮称）とする。「ファーストステージ」においては、基礎学力の充実と学習習慣の確立、「セカンドステージ」では、基礎学力のさらなる充実及び発展、応用力の構築と体験学習等の実践活動の充実、「サードステージ」では、それまでの学習のまとめと完成、および各自の進路に沿った学習の確立を大きな目標とし、各ステージでの目標に沿った詳細な学習計画をさらに定め、生徒の学習と自己形成を充実させる。
- ② 三学期制、50分授業を行い、授業時間を十分に確保する。
- ③ 能力・興味の程度に応じた指導、少人数での指導を実施し、生徒の能力や興味にあわせた発展的な学習・補充的な学習を充実させる。
- ④ 始業前・放課後、土曜日や長期休業日を利用し、生徒の能力や興味にあわせた講習、補習等を積極的に実施する。

2 特色ある教育活動

中高一貫教育校として特色のある教育活動を行い、高い見識と思いやりの心をもった社会的リーダーを育成する。

- (1) 基礎学力の充実と高い見識の獲得を目指し、以下の教科内容を、前期課程（中学校）段階では、特色ある教科、その他特に必要な教科として設置するか、もしくは「総合的な学習の時間」および「各教科」の内容に盛り込んで、教科を超えた範囲で実践し、

また後期課程（高等学校）段階では学校設定科目として設置する。特に社会的リーダーとして必要な思いやり・人間愛の形成、論理的思考力の形成に重点を置く。

① 前期課程（中学校）：基礎学力の充実と論理的思考力、豊かな情操の形成に重点を置く。

ア 第1学年 文化科学Ⅰ（国語）・・・国語はすべての教科の基礎となる科目である。読むこと・書くことの基礎となる、漢字・語彙の正確かつ広範な学習と、考えるための読解力・社会的リーダーとして必要な心情理解力の養成にも重点を置く。学習を通して自他について主体的に思考する契機となるよう指導する。

イ 第1学年 文化一般（芸術）・・・音楽、美術では表現するだけでなく、国内外の芸術作品を鑑賞することに重点を置き、豊かな情操と感受性をはぐくむよう指導する。

ウ 第2学年 自然科学Ⅰ（数学）・・・問題解決のプロセスに重要な役割を果たす、既知の情報から新しい価値ある情報を導き出す思考力を育成し、日常生活の問題解決に多角的に取り組む。考えを整理する、論理的に考える、筋道を通して主張するなどの力を数学を通して指導し、社会的リーダーとして必要な論理的思考力を養成する。

エ 第3学年 自然科学Ⅱ（理科）・・・自然と人との関わり合いや自然との共生、生命の尊重を通じ、社会的リーダーとして必要な思いやりの心をはぐくむ。環境科学に関する単元では、理科にとどまらず、数学、地理、家庭などの領域を融合して指導する。

② 後期課程（高等学校）：高い見識、コミュニケーション能力育成に重点を置き学校設定科目として設置する。

ア 第4学年 文化科学Ⅱ（社会）・・・地歴・公民の社会科の領域を融合し、前期課程で学習した事項の分野を超えた関連について学ぶ。社会的な事象に対する客観的、公正な考え方を学ぶため、特に社会福祉論、社会貢献論や社会における役割と責任を考える法理論に重点を置き、「総合的な学習の時間」と連動させ、裁判制度、選挙制度等についても学び、社会的リーダーとしての資質の育成を図るよう指導する。

イ 第5学年 文化科学Ⅲ（国語）・・・「文化科学Ⅰ（国語）」や教科国語で培った読解力・心情理解力をもとに、グループ討論・討議を活用して、自らの意見を表現する能力、人の意見を聞く能力の育成に重点を置き、社会的リーダーとして必要な社会性、協調性をはぐくむよう指導する。

ウ 第5学年 文化科学Ⅳ（英語）・・・文化的背景、生活習慣などが違う相手に論理的な議論ができる言語能力の形成に重点を置く。小手先の会話表現の習得ではなく、喜怒哀楽に富んだ体験談や伝記、異文化や現代社会の諸問題を扱った評論、こころを揺さぶる小説などの原典の精読を通し、異文化理解、真の意味でのコミュニケーション能力を高め、グローバルな視野をもった、社会的リーダーの資質を育成するよう指導する。

(2) 6年間一貫した系統的、継続的キャリア教育

課題解決学習、論文作成、プレゼンテーションを通しての情報処理能力、将来設計能力、意思決定能力の育成と「総合的な学習の時間」を中心にさまざまな体験的学習や調査・研究学習を通して、自己の将来の在り方についての目標を設定させ、明確な目的意識をもって進むべき大学・学部等を選択する力を育てると同時に社会人になった時、社会的リーダーとしてどのように社会に貢献していくべきかの視点までとり入れた幅広いキャリア教育を展開する。

- ① 第1・2学年では、地域中心の学習に始まり、農林業、水産業など、普段身近にはない職業まで範囲を広げて、調べ学習を行い、幅広い視野、視点を形成する。体験学習、調査研究、保護者・卒業生・地域の社会人による職業紹介などを通じて、自己の適性、将来の職業などについても考察する。第1学年では論文作成について学び、第2学年では「ファーストステージ」のまとめとして、それまでに学んだ情報検索の方法、論文作成の方法を活用して「今の日本を創った人物」について小論文を作成する。
- ② 第3・4学年では福祉施設・製造業や司法、行政、立法、大使館、企業等を中心に調べ学習を行うと同時に地域、日本から視点を世界に移し、世界の偉人や教育制度の比較論、男女共同参画などを主題にし、論文作成やディベート、パネルディスカッション等を通して、幅広い視野を育成する。また第3学年では職業体験を通じて、望ましい勤労観を養い、第4学年では「セカンドステージ」のまとめとして「福祉・教育・環境・平和」をテーマとする研究論文を作成する。
- ③ 第5学年では大学と職業の関係について調べ学習を行う。また各自の将来に向けたテーマに沿って卒業論文作成に向けた準備を開始する。
- ④ 第6学年では「サードステージ」および6年間の総括として卒業論文を作成する。またそれに基づいて、ビジュアル機器を用いたプレゼンテーションも準備し、学年全体での発表会を実施する。

(3) 自他を理解し尊重する態度、規律ある生活習慣の確立を目指す生活指導

- ① 思いやり・人間愛（ヒューマニティ）を主題とする人間関係形成能力の育成
 - ア 「総合的な学習の時間」を中心に、人間関係作りや礼儀作法、集団の中での自分の役割と責任、日本特有の伝統文化・行事、習慣・マナーなどの自文化理解、世界各国の文化、マナーなどの異文化理解の学習を通し、望ましい人格形成に寄与する事象について考え、社会的リーダーに必要な思いやりの心を育成する。
 - イ 「道徳」や学校設定科目「文化科学Ⅱ（社会）」と有機的に関連させ、社会法、法理論、裁判制度等を理解し、基本的人権を尊重する気持ち、ボランティア精神、人類愛への理解を図る。
 - ウ 学校行事やホームルーム活動、委員会活動、部活動などの特別活動を重視し、異年齢集団の中で他者を理解し尊重する態度、リーダーシップと思いやりの心のバランス及び自主・自立の精神を養う。
 - エ この特別活動の時間を保証するため、午後3時に授業が終了するよう、50分、6時間授業を原則とする。

② 親身できめ細やかな生活指導

あいさつの励行、礼儀正しい態度や身だしなみ、集団生活でのマナー、規範意識の育成等、きめ細かく規律ある生活指導を通し、社会性、協調性、規範意識などを育成する。

(4) 継続的読書指導を通した思いやりの心、高い見識の育成

① 読書を通じて、豊かな人間性と思いやりの心、高い見識と読解力および表現力を身に付ける。ファーストステージでは朝の読書タイムも利用し、1年間で24冊以上、セカンドステージでは18冊以上、サードステージでは第5学年を中心に16冊以上を目標とし、在校中に最低100冊を読破するよう指導する（読書マラソン）。

読書ノート（記録）を活用し、課題図書、任意の読書をバランスよく配置する。年に数回読書感想文の提出をさせるが、主体的に読書に親しむ姿勢を育成することを目的とする。

② 第4・5学年において、難易度順にリライトされた英語の読み物を中心に講読する。生徒の興味、読解力に基づき、1分間に100語を読める題材を選ばせ、1日15分、2年間で100万語を読破することを目標とする。第5学年の学校設定科目「文化科学Ⅳ（英語）」の原書講読に連動するよう指導する。英語読解力養成を目指すだけでなく、豊かな人間性、国際的な視野の育成にも重点を置き実施する（読書マラソン—英語—）。

(5) 国際的な視野の育成

① 教科活動全般、道徳、総合的な学習の時間等の学習や移動教室、修学旅行、芸術鑑賞教室等を通して、日本や世界の文化・伝統・習慣を理解し、国際社会の中での日本の役割を考えることのできる人間を育成する。

② 英語については、国際社会で活躍できる能力を育成するため、第1学年の段階から英語を母語とする外国人英語等教育補助員の活用やPCLL教室の利用を含め、生きた英語の学習を充実させる。能力・興味に応じたクラス編成や読書マラソン—英語—、リスニング・ミニマラソンなどの継続的指導を通し、「読む」「書く」「聞く」「話す」のバランスのとれたコミュニケーション能力の伸張を図る。

(6) 地域と連携し、地域から学び、地域に発信する多様な活動

① 地域文化、産業、歴史等の学習や史跡調査を積極的に活用し地域を学ぶ。

② 地域での職場体験、地域の人材を社会人講師として活用するなど、地域社会との交流を深める。

③ 地域の幼稚園、小学校、中学校との連携を図り、地域に根ざした教育活動を展開する。

④ 近隣の中学校と前期課程（中学校）の生徒や教職員との連携、交流を積極的に推進する。

⑤ 公開授業、公開講座、施設開放等により学校の教育力を地域に還元する。

3 教科等の指導の展開

(1) 各教科における学習指導の展開

① 国語

文化の源となる国語教育という視点に立ち、読むこと・書くことはもちろん、話すこと・聞くことの領域において「ことば」の働き、成り立ちに興味や関心をもち、言語文化に対する理解や関心を深め、尊重する態度を養うと同時に、実社会においても「ことば」の正しい、主体的な使い手となり、自分の気持ち、考えを正しく表現できる力を身に付けさせる。

前期課程（中学校）段階では、読むこと・書くことの基礎となる、漢字・語彙の学習に継続的に取り組む。国語を正確に理解し、適切に表現する力を育成する。また、「文化科学Ⅰ（国語）」においては、考えるための読解力、心情理解力の養成に重点を置き、文学作品を中心に様々なジャンルの作品を読解し、鑑賞する態度を養う。

後期課程（高等学校）では、現代文・古文・漢文を幅広く学ぶと同時に、特に一つの古典作品や近現代の文学作品を集中的に取り上げることによって日本文学、日本語への興味・関心をもち、豊かな国語力を養う。また、学校設定科目「文化科学Ⅲ（国語）」では、文学作品を題材にグループ討論・討議を活用して、社会的リーダーとして自らの意見を正確に表現する能力、人の意見を聞く能力の育成にも重点を置き、国語の正しい担い手としての総合力を育成する。

また、読解力、表現力育成や生涯学習の観点から、6年間一貫した継続的な読書指導（読書マラソン）に取り組み、在校中に、指定図書を中心に100冊読破を目標とし、国語学習全体を通じて主体的に読書に親しむ姿勢を養う。

② 社会、地理歴史、公民

6年間を通じ各分野の基本的な事項に関する知識・技能を確実に習得させるとともに、分野相互の関連を図り、社会的事象に対する正しい理解と人間への多面的な関心と愛情を身に付けた社会的リーダーとして必要な判断力・表現力を身に付けさせる。

前期課程（中学校）段階では、基本的な内容の習得に努めるとともに、地理・歴史・公民の各分野において、資料・文献などを活用し、思考力、考察力、応用力を身に付ける学習活動を展開するとともに、地域における史跡や諸事象を取り上げ、フィールドワークを実施し、作業的、体験的学習、課題レポートなど多様で、主体的な学習活動を充実させる。

後期課程（高等学校）段階では、前期課程の各分野における理解を基礎として、歴史的、地理的思考力をさらに深化させ、公民として必要な基本的人権を尊重する態度を育成する。課題研究、発表、ディベートなど多様な授業形態を取り入れ、積極的、主体的な学習を充実させる。また、学校設定科目「文化科学Ⅱ（社会）」では、社会福祉論、社会貢献論や社会における役割と責任を考える法理論に重点を置き、社会的リーダーとしての資質を育成する。

③ 数学

6年間の教育課程を、中等教育学校としての特色を生かして、系統的・体系的に編成する。

前期課程（中学校）段階では、基本的な概念や原理・法則の理解を徹底させ、数学的な表現や処理の仕方を習得させる。また、演習や課題学習等の時間を十分に確保するとともに、習熟の程度に応じた少人数授業を展開し、基礎・基本の定着を図る。また、「自然科学Ⅰ（数学）」では、思考力の育成に焦点をあてるとともに、数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方の重要性に気づくよう指導し、社会的リーダーに必要な問題解決能力や論理的思考力を高める。

後期課程（高等学校）段階では、前期課程での学習内容をさらに深化させ、事象を数理的に考察し、数学的な考え方、論理的な考え方を積極的に活用する態度を育成する。また、問題演習の時間を十分に確保し、習熟の程度に応じた、補充的な学習と発展的な学習を展開し、問題解決能力の定着を図る。

④ 理科

前期課程（中学校）段階では、知識の習得に偏ることなく、観察や実験の機会を十分に確保する。自然界の様々な事物・現象と接することを通して、自然に対する興味・関心を高める。また、意欲的に探究する活動を通して、科学的な見方や考え方を養うとともに、探究心をはぐくみ、自然を総合的に見ることができるようにする。特に三鷹地域の豊かな自然を活用したフィールドワークも積極的に活用する。さらに、観察や実験の後のまとめでは、レポートの作成に取り組みせ、自らの考えを論理的かつ的確に表現する力を育成する。また、生徒の習熟の程度に応じて、高等学校の学習内容と関連させた発展的な学習など、個に応じた指導の充実を図る。「自然科学Ⅱ（理科）」では、自然と人との関わり合いや共生、生命の尊重を通じ、社会的リーダーとして必要な基本的人権を尊重する態度を育成する。また環境科学にも焦点をあて、その際には、理科にとどまらず、数学、地理、家庭などの領域を融合して指導する。

後期課程（高等学校）段階では、個々の生徒の興味・関心に応じて科目を選択させ、専門性の高い授業を展開すると同時に、各科目間を横断的に考える力の育成にも重点を置く。

⑤ 英語

6年間を通じて「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を生徒の精神の発達段階に応じてバランスよく配置する。英語の実践コミュニケーション能力の育成のみならず、外国語の背景にある言語や文化・社会を理解し、自己形成の一助としての外国語の学習を目指す。

また、暗唱した英語などを発表するレシテーションコンテスト等を適時開催し、バランスのとれた英語能力の伸張の一助とする。

前期課程（中学校）段階では、予習・復習の学習習慣を身につけさせるとともに、英語への興味付け、基礎の語彙・定型表現の定着を図る。また、生涯学習の観点からも、予習、復習のほかにリスニング、リーディング等の家庭学習の充実を促す。また、

外国人英語等教育補助員（A L T）を配置したり、コンピュータ利用の学習システム（C A I）の活用を通して、実践的な英語に触れる機会を多く提供する。さらに、少人数学習の導入についても検討する。前期段階で不足しがちな「書くこと」「読むこと」の指導にも特に重点を置く。

後期課程（高等学校）段階でも、引き続きA L TやC A Iを活用すると同時に、習熟の程度に応じた授業を実施し、発展的内容も扱う。また、第4・5学年にはサイドリーダーを活用し、多読を通してさまざまな分野の英語に対応できる能力を育成する（読書マラソン—英語—）。第5学年の学校設定科目「文化科学Ⅳ（英語）」では、英語で書かれた名作の原典の精読を通して、異文化理解を深め、グローバルな視野をもった、社会的リーダーの資質を育成するよう指導する。第6学年では生徒の興味・関心・能力に応じた選択講座を設置して、発展的・応用的な力を身に付ける。

また、セカンド・ステージ（第3・4学年）では、リスニング・ミニマラソンを設定し、1年間で350時間、2年間で700時間のリスニング時間を確保するよう指導する。

6年間を通して、到達度を測り、動機付けを継続するため、前期段階では日本英語検定、後期段階ではT O E I Cなどを中心に検定試験の受験を勧める。こうした検定試験を念頭に置いた補習、補講や選択講座を充実させる。

⑥ 保健体育

生徒の発達段階と個々の能力に応じ、運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、基礎的な体力や運動能力を高めながら、保健体育の学習全体を通じて、体力の向上や健康の保持増進を図る。集団スポーツやグループ学習を通して、人間関係の大切さを理解し、社会的リーダーの資質の育成を図る。

前期課程（中学校）段階では、運動の楽しさや喜びを味わわせるとともに、基礎的・基本的な運動技能の確実な習得を図り、バランスのよい運動能力と運動を進んで行う態度を育成する。

後期課程（高等学校）段階では、前期課程で学んだ技能をもとに、多様な選択種目を設けることにより、主体的に運動に取り組み、生涯スポーツへ発展させる態度や技能を身に付ける。

自らの健康が、環境を中心とした多様な要素とのかかわりの中で成り立っていることを理解し、自らの健康を適切に管理し改善する資質や能力を育てる。

⑦ 音楽、芸術（音楽）

6年間の継続した音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに豊かな感性、表現力、創造性を養う。

特に、次の三点を大切にする。

ア 幅広い音楽活動を通して基礎的な表現力や鑑賞力などの音楽能力を伸ばす。

イ 日本および世界の様々な音楽文化を尊重し、理解を深め、愛好する心情を育てる。

ウ 創造的な自己表現力を高めるとともに、音楽活動を通してコミュニケーション能力を養う。

前期課程では、基礎・基本を重視し、基礎的な歌唱・器楽の演奏技術の修得を目指すとともに、鑑賞力や創造性の伸張も目指す。

後期課程では、前期で身につけた基礎的表現力、鑑賞力、創造性をもとに、幅広い視野で生涯にわたり音楽を愛好する力の伸張を目指す。そのための、より深い表現の追求及びより広く深い鑑賞力の育成を目指す。

⑧ 美術、芸術（美術）

6年間の継続した美術の表現及び鑑賞の活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに豊かな創造性、発想力、表現力を養う。

特に、次の三点を大切にす。

ア 発想する力と発想を表現につなげ自分の力で深める力の伸張

イ 過去から現代にいたる日本及び世界の文化に対する知識と共感力の育成

ウ 表現欲求を作品にするための技能・技術力の伸張

前期課程では、基礎的な技術・技能や鑑賞力の修得を目指すとともに、発想したことを表現につなげ深める力の伸張を目指す。

後期課程では、前期で身につけた基礎的表現力、鑑賞力、発想力をもとに、幅広い視野で生涯にわたり美術を愛好する力の伸張を目指す。そのための、より深い表現の追求及びより広く深い鑑賞力の育成を目指す。

⑨ 国語（書写）、芸術（書道）

6年間の継続した書写・書道の学習活動を通して、文字文化尊重の基盤に立った書写力を身に付け、多様な観点から書に対して主体的に関わりをもちながら「創造的な表現力」や「新たな価値観」を養い、生涯学習の基礎を培う。

具体的には次の三点を重視する。

ア 文字を正しく整えて速く書く能力を身に付け、日常生活に生かす態度を育成する。

イ 学習過程を重視することで自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力を育成する。

ウ 書の文化と伝統を尊重する態度を育成し、豊かな情操を養う。

前期課程では、基礎・基本の習得を重視し、文字感覚の育成を図るとともに、自ら進んで工夫し、丁寧に書く意識や態度、書写能力を日常生活に役立たせることを目指す。

後期課程では、表現および鑑賞との関連を図りながら個性を生かした創造的な学習活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育成することを目指す。

また「文化一般（芸術）」では音楽・美術での国内外の芸術作品の鑑賞を通じた、豊かな感受性の育成に重点を置く。

⑩ 中学校 技術・家庭

前期課程（中学校）段階での、「技術・家庭」では、生活の自立と共生に必要な衣食住、ものづくり、エネルギーの利用、コンピュータの活用について、実践的・体験的な学習活動に重点を置く。特に技術分野では、「タッチタイピング」や「インターネットによる情報検索」などの基本的なスキルを徹底的に習得させ、各教科で必要とな

る情報検索に役立ち、さらに後期課程での「情報」のプログラム作成につながるよう指導する。また家庭分野では、家族・家庭の機能や役割について理解を深めるとともに、人との関わりや住みよい地域づくり、消費生活、エネルギーの利用、環境問題などの発展的な学習も行い、自ら課題をもって、解決する態度を育成する。

⑪ 高等学校 家庭

後期課程（高等学校）段階の「家庭」では、前期課程での基礎的な学習の上に、多様な事象を科学的にとらえ、分析し、よりよい生き方、生活の仕方を自ら積極的にデザインしていく資質を養成する。実習、実験を積極的に取り入れ、社会の一員としてまた一人の生活者としての実際に即した学習を行う。また、男女が協力して生活を創造し、家庭生活を充実、向上させていく能力から、自分の生活が環境問題などの地球規模の課題とどうかかわっているかまで、ひろく社会の中で生活の主体者として生きていく能力を育成する。

⑫ 情報

情報に関する科学的な知識、技術を習得し、あわせて倫理観をはぐくむ。コンピュータにおける情報の表し方や処理の仕組み、情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解させ、問題解決においてコンピュータを効果的に活用するための科学的な考え方や方法を習得させる。特に情報モラルに関する学習を重視し、情報の受け手を意識した情報発信ができる生徒を育成する。

(2) 道徳

思いやり・人間愛（ヒューマニティ）を主題に、社会的リーダーとして必要な判断力と行動力、思いやりの心を育成する。そのため道徳教育は学校の教育活動全体を通じて行うとともに、中等教育学校としての特色を生かし、各教科、道徳の時間、特別活動、および総合的な学習の時間における道徳教育との密接な関連を図る。

前期課程（中学校）においては、道徳の時間を中心に、他人を思いやる心や互いに助け合う心をはぐくむとともに、物事を正しく判断し、自分の言動に責任をもつ態度を養う。また、自己の生き方、在り方を考えさせるとともに、地域や社会、ひいては世界の平和や人類の幸福に貢献する態度を育成する。

後期課程（高等学校）においても、総合的な学習の時間を中心とした学校教育全体を通じて、生徒の発達段階や特性等を考慮しながら、奉仕体験活動などの体験活動を積極的に取り入れて、道徳的实践力を育成する。

(3) 特別活動等

社会的リーダーとして、リーダーシップをいかに発揮する能力や、自分の主張を明言しながらも、協調性を発揮して他のリーダーをサポートする能力などを育成するためには、特別活動を通じた様々な経験こそが生きた教科書となりうる。ホームルーム、委員会、部など共通する目的を持った様々な集団の中での、リーダーシップ、自己の役割と責任、他者への配慮など、リーダーとしての資質を育成、伸張する活動

を重視する。

さらに、中等教育学校としての特色を生かし、異年齢集団での交流活動を積極的に行い、豊かで柔軟な感性と仲間意識を身に付けさせる。また、一人一人の個性や能力を大切に、伸張させながら、心身ともに健やかで、人を思いやる心を持つ生徒を育成することを目標とする。

① 学級活動、ホームルーム活動

前期課程（中学校）では、各学級における班活動や係活動を重視し、自己と他、集団とのかかわりを尊重する態度を育成する。また、生徒の自主性・自発性を重んじ、自分に与えられた責任、使命を自覚できる人間を育てる。特に話し合い活動を重視することで正しい判断力と自らを律し、仲間と協調できる態度を育成する。

後期課程（高等学校）では、ホームルーム活動において、社会の一員としての自覚を深め、豊かな社会性や人間性を育成する。ホームルーム活動を中心に、生徒会活動、委員会活動、学校行事に積極的に参加することを通して、課題の解決に向けて相互に協力し合う精神や、コミュニケーション能力、人を思いやる心、リーダーシップを高める。

また、6年間の系統的、継続的な進路学習等を通して、望ましい勤労観、職業観を育て、目的意識をもって大学へ進学し、思いやりの心を持った社会的リーダーとして活躍できる人材を育成する。

② 生徒会活動

前期課程（中学校）では、生徒会、委員会、学級活動相互の連携を図り、学校行事の企画・立案・運営に主体的・自主的にかかわる態度を育てる。また、異年齢集団との関わりの中から、集団とのかかわり方を学習し、達成感や成就感を実感させる。

後期課程（高等学校）では、より自発的・自治的な活動を通して、自主性と責任感を育成する。地域との連携、ボランティア活動においても自発的に中心となって活動できるリーダーシップを育成する。学校行事については、前期課程の生徒とともに活動する中で、上級生として責任ある態度で集団をまとめ、行事を成功させることのできる社会的リーダーを育成する。

③ 部活動

異年齢集団における継続的な活動において、目的を共有し互いに切磋琢磨^{せつさたくま}することで、互いを尊重し合う豊かな人間関係を育てるとともに、個性や能力の伸張を図る。また、生徒同士による自主的・意欲的な活動を通して、学校生活に充実感と潤いをもたせ、探究心、豊かな感性・情緒、体力、思いやりの心などを養う。

④ 学校行事

6年間を通じて、学校生活に秩序と変化を与えるとともに、集団への所属感を高め、学校生活の充実と発展を促す学校行事を設定する。学校行事の中で、異年齢集団における交流を深め、思いやりの心をもつ豊かな人間性を育て、社会的リーダーとしての

資質を養う。

母体校である三鷹高校の伝統である合唱祭、鷹高祭（文化祭・体育祭）は、前後期課程の生徒会による企画・立案・運営により、伝統を守りながらも、新たな文化・伝統の創造を目指させる。

移動教室、ホームルーム合宿、集団生活体験、修学旅行等の宿泊行事では、集団生活における規律、協調を学ばせると同時に、それぞれ目的を明確にし、事前、事後学習と一体化させて人格形成に寄与するよう工夫する。

総合的な学習の時間や各教科の学習活動などの学校生活の成果を発表する場（行事例「プレゼンテーション大会」）を設け、教科学習等の深化を促す。

進路に関するオリエンテーション、体験学習、キャリアガイダンス、在卒懇談会、大学模擬授業等を積極的に行い、生徒の進路意識を啓発する。

さらに、ボランティア活動や職場体験、インターンシップをはじめ、地域の文化的・体育的活動に参加させ、地域の人々との交流を積極的に進める。

（４）総合的な学習の時間

① 思いやり・人間愛（ヒューマニティ）を主題とする人間関係形成能力の育成

一般常識、礼儀作法に始まり自文化、異文化理解を通し、望ましい人格形成に寄与する事象について考え、思いやりの心を育成する。道徳や特別活動とかわらせながら、自ら調べ、話し合い、発表等を通して、豊かな人間性を育てることを目標とする。

前期課程（中学校）段階では、一般常識、礼儀作法、ルール、敬語、討論の基礎、日本の伝統文化、特有の行事、習慣、マナー、世界の各国特有の行事、習慣、マナー、裁判制度など社会的リーダーとして必要な事柄を学習する。また、街角インタビュー、職場体験、ボランティア体験などの体験活動を通して、実践力、コミュニケーション能力を育成する。

後期課程（高等学校）段階では、個人課題解決学習と連動させ、前期課程で学んだことを論文作成に反映させる。

② 個人課題解決学習

生徒の発達段階を考慮し、キャリア・デザインと連動させながら、調べ学習を行い、そのまとめとしてステージごとに論文を作成する。

第1学年では地域の社会人による職業紹介を通して様々な職業の実際について学習する。また自己の興味・関心のある分野を調査、研究しながら論文作成の基礎を学習する。第2学年では特別活動の集団生活体験と連動させ、「職業調べⅡ」として、東京では経験できない農林業や漁業について調べ学習をすると同時に、ファーストステージのまとめの論文を作成する。

第3学年では「職業調べⅢ」として、福祉施設、病院、製造、サービス業について調べ学習を行う。第4学年では企業、大使館見学等を通して、「職業調べⅣ」として司法・行政・立法等について調べ学習を行う。また、「職業調べ」のまとめとして、将来設計プランを各自が策定する。さらに第3学年での移動教室なども参考にセカンドステージのまとめとして福祉、環境、教育、平和をテーマとする論文を作成する。

第5学年では、大学、研究室訪問、オープンキャンパス等を通して大学と職業の関係の調べ学習を行う。また、第6学年の研究論文作成にむけて、テーマの設定と論文作成の準備をする。第6学年では6年間のまとめとして研究論文を作成する。また研究論文をパソコン等を用いたプレゼンテーション用にまとめ、優秀作品によるプレゼンテーション大会を実施する。

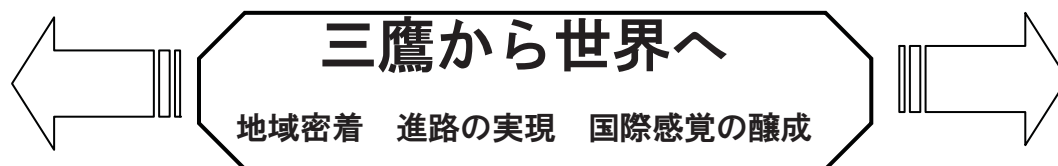
③ 学習の展開例

ファーストステージ：第1学年 基礎的な学習とフィールドワーク		
	思いやり・人間愛（ヒューマニティ）	個人課題解決学習
1 学期	課題 自分史づくり 作文、年表作り	課題 自己の興味・関心のある分野の調査・研究・発表
2 学期	課題 「人間関係作り」 一般常識、礼儀作法、敬語 講義、グループ討議、レポート 課題 「人間・地域研究」基礎 フィールドワーク（街角インタビュー） レポート、発表	課題 論文作成の基礎 講義、調べ学習、練習 課題 図書館の仕組み 学校図書館、公立図書館について 見学、検索の仕方等の調べ学習、 講義、レポート
3 学期	課題 「討論の基礎」 講義、様々なテーマに基づくグループ討論、発表	課題 職業研究基礎 保護者・卒業生・地域の人による 職業紹介 講演、レポート
ファーストステージ：第2学年 基礎的な学習とフィールドワーク		
1 学期	課題 「ボランティア」Ⅰ さまざまなボランティアの形態 講義、調べ学習、グループ討議 課題 職場訪問 講義、レポート、発表	課題 職業調べⅠ 地域企業、商店 レポート、発表 課題 地域研究Ⅰ 郷土史、文化施設等 フィールドワーク、レポート
2 学期	課題 自文化理解Ⅰ 日本の伝統文化について 見学・鑑賞・調べ学習・グループ 発表 課題 職業実践 模擬店 企画、立案、開店（文化祭）レポ ート	課題 三鷹自慢、多摩自慢 三鷹市や多摩地域の良いところ、 誇れるところを見つけ、まとめ、 地域に向けてグループで発表 課題 情報検索 インターネットを用いた情報検索 講義・実践・レポート
3 学期	課題 自文化理解Ⅱ 日本特有の行事・習慣・マナー 講義、鑑賞・調べ学習、レポート	課題 職業調べⅡ 農林業、集団生活体験と連動 調べ学習、レポート、発表 課題 小論文作成 ファーストステージのまとめ 「今の日本を創った人物」について

セカンドステージ：第3学年 実践的・自発的な学習とフィールドワーク		
1 学期	課題 「ボランティア」Ⅱ—体験活動— 事前指導・体験活動・事後指導 レポート 課題 異文化理解Ⅰ 世界各国特有の行事・習慣・マナー 鑑賞・講義・テーブルマナー・レ ポート	課題 職業調べⅢ 福祉施設・病院等 製造・サービス業 見学、講義、レポート 課題 地域研究Ⅱ 地域から生まれた文豪、名士等 フィールドワーク、調べ学習、レ ポート
2 学期	課題 自文化理解Ⅲ・異文化理解Ⅱ 裁判制度 見学、鑑賞、調べ学習、模擬裁判 シナリオ作成 課題 職場体験学習 調べ学習、レポート	課題 戦争と平和 講義、調べ学習、パネルディスカ ッション 移動教室と連動 課題 世界の偉人 調べ学習、ミニ論文作成
3 学期	課題 自文化理解Ⅳ・異文化理解Ⅲ 選挙制度 鑑賞、調べ学習、模擬選挙シナリ オ作成	課題 自然科学Ⅰ—地球・宇宙 講義、調べ学習、レポート
セカンドステージ：第4学年 実践的・自発的な学習とフィールドワーク		
1 学期	課題 職業調べⅣ 行政・立法・各国大使館・企業等見学、講義、調べ学習、レポート 課題 世界各国と日本の教育制度 講義、調べ学習、発表、ディベート	
2 学期	課題 自然科学Ⅱ—環境 フィールドワーク、講義、調べ学習、レポート、発表 課題 学校PR—学校のPRを考え、まとめて地域に発表 調べ学習、他校訪問、レポート、発表 課題 進路講演会 講演、調べ学習、将来設計プランの策定	
3 学期	課題 家庭から見た社会、男女共同参画型社会等 調べ学習、講義、ディベート 課題 セカンドステージのまとめ 論文作成 福祉・教育・環境・平和をテーマとする	
サードステージ：第5・6学年 まとめと卒業論文作成		
第 5 学 年	○自分の進路に照らした大学と職業の関係調べ ○大学・研究室訪問 ○大学模擬授業 ○卒業論文作成準備（テーマ設定・予備提出）	
6 学 年	○卒業論文作成「総合的な学習の時間のまとめ」 課題（テーマ）は自由とするが、論文作成は個人で行う。 夏季休業日明けに提出期限を設けるが、提出までに1～2回の予備提出を求め指導 助言を与える。 ○卒業論文をビジュアル器材を利用したプレゼンテーションにまとめ、グループ発表 後、優秀作品によるプレゼンテーション大会を実施する。	

三鷹地区中高一貫6年制学校

特色ある教育活動のイメージ図

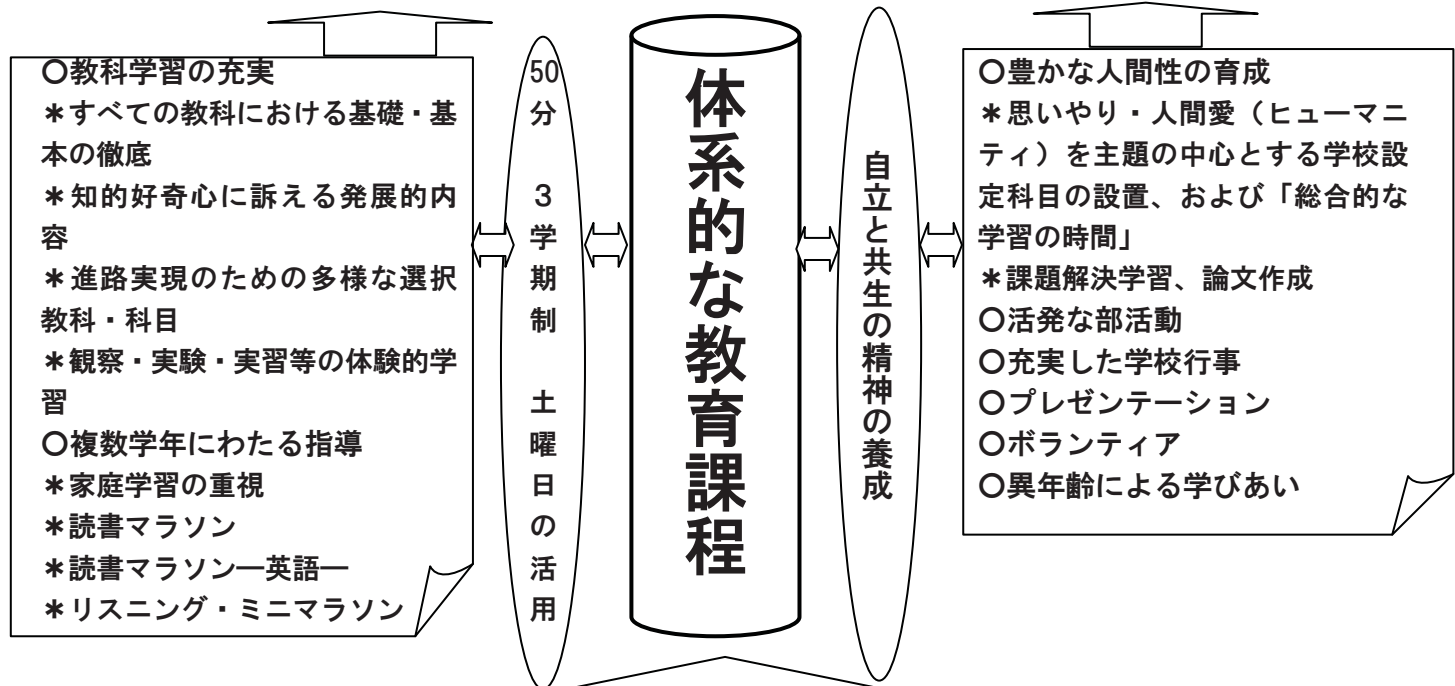


思いやりの心をもった社会的リーダーの育成

高い見識
幅広い視野

高い倫理観
思いやり・人間愛

自分の限界までチャレンジ



6年間の完全一貫教育

サードステージ (第5・6学年)	発展応用期
セカンドステージ (第3・4学年)	活動実践期
ファーストステージ(第1・2学年)	基礎力養成期

* 6年間を通じた特色ある教育活動の例

学年	節目	特色ある教科指導	総合的な学習の時間		道徳・生徒指導等	特別活動等
			思いやり・人間愛 (ヒューマニティ)	個人課題解決学習		
1年	ファーストステージ	「文化科学Ⅰ(国語)」 「文化一般(芸術)」 読書マラソン ALTの活用 レシテーションコンテストの実施 フィールドワーク(社会・理科) 地域社会との連携交流	○自分を知る ○人間関係作り ・一般常識、礼儀、作法、敬語 ・集団活動 ○討論の基礎 ○「人間・地域研究」基礎 ・街角インタビュー	○自己の興味・関心のある分野の調査・研究・発表 ○論文作成の基礎 ○図書館の仕組み ○職業研究基礎 保護者・卒業生・地域の人による職業紹介	基本的人権の尊重 生活習慣の確立 学習習慣の導入 土曜講演会	オリエンテーション ホームルーム合宿 合唱祭 体育祭 文化祭 芸術鑑賞教室 遠足
2年		「自然科学Ⅰ(数学)」 読書マラソン ALTの活用 少人数学習の導入(英語) フィールドワーク(社会・理科) 発展的な学習内容の展開(理科・数学) 実験・観察の重視(理科) レシテーションコンテストの実施 地域社会との連携交流 メディアリテラシーⅠ(技術・家庭)	○様々なボランティアの形態について ・勤労の尊さ ・ボランティア精神 ○職場訪問(地域企業) ○自文化理解ⅠⅡ ・日本の伝統文化 ・日本特有の行事・習慣・マナー ○職業実践	○職業調べⅠ ・農林業 ○地域研究Ⅰ ・郷土史、文化施設 ○三鷹自慢・多摩自慢 ○情報検索 ○職業調べⅡ ○小論文作成 「今の日本を創った人物」	生活習慣の確立 学習習慣の導入 土曜講演会	集団生活体験(農業等) 合唱祭 体育祭 文化祭 芸術鑑賞教室 遠足
3年	セカンドステージ	「自然科学Ⅱ(理科)」 読書マラソン リスニング・ミニマラソン フィールドワーク(社会・理科) ALTの活用 発展的な学習内容の展開(理科・数学) 地域社会との連携交流	○ボランティア体験 ○異文化理解Ⅰ・世界の各国特有の行事・習慣・マナー ・テーブルマナー ○自文化理解Ⅲ・異文化理解Ⅱ ・裁判制度、司法の役割 ○自文化理解Ⅳ・異文化理解Ⅲ ・模擬選挙 ○職場体験学習	○職業調べⅢ ・福祉施設、病院等 ・製造・サービス業 ○地域研究Ⅱ ・地域の文豪、名士 ○戦争と平和 ○世界の偉人 ○自然科学Ⅰ ・地球・宇宙	国際理解 人類愛(差別のない心の育成) 土曜講演会	移動教室(平和学習) 合唱祭 体育祭 文化祭 芸術鑑賞教室 遠足

学年	節目	特色ある教科指導	総合的な学習の時間	道徳・生徒指導等	特別活動等
4年	セカンドステージ	学校設定科目「文化科学Ⅱ(社会)」 読書マラソン 読書マラソン—英語— リスニング・ミニマラソン フィールドワーク(社会・理科) 芸術の活動を通じた、豊かな人間性の育成(芸術) 地域社会との連携交流	○職業調べⅣ ・司法・行政・立法、各国大使館・企業等 ・大使館・企業訪問 ○世界各国と日本の教育制度 ○自然科学Ⅱ ・環境 ○学校PR ○家庭から見た社会 ○将来設計プランの策定 ○福祉・環境・平和・教育のいずれかをテーマとする研究論文作成 ○進路講演会 ○奉仕体験	社会貢献	合唱祭 体育祭 文化祭 芸術鑑賞教室 かるた会 遠足 高大連携校への授業参加
5年	サードステージ	学校設定科目「文化科学Ⅲ(国語)」 学校設定科目「文化科学Ⅳ(英語)」 読書マラソン 読書マラソン—英語— 高校数学の完成	○大学と職業の関係調べ ○大学・研究室訪問 ○自由研究 ・論文作成準備 ・プレゼンテーション準備 ○大学模擬授業	社会的道徳心の確立 集団の中でのリーダーシップの育成	修学旅行 合唱祭 体育祭 文化祭 芸術鑑賞教室 遠足 高大連携校への授業参加
6年		進路に応じた学習の展開 メディアリテラシーⅡ(情報)	○自由研究 ・卒業論文作成 ・プレゼンテーション ○在卒懇談会 ○各界リーダーを招いての講演会	社会的リーダーとしての意識の確立	合唱祭 体育祭 文化祭 芸術鑑賞教室 遠足 高大連携校への授業参加

第4章 三鷹地区中高一貫6年制学校の施設・設備の整備

1 考え方

三鷹地区中高一貫6年制学校の施設・設備については、同校の教育理念や教育課程の検討結果を踏まえ、学校の特色を生かしながら6年間の体系的で一貫した教育を効果的に展開することを可能とする施設を、現行施設の活用を基本としながら整備していくことを検討した。

2 施設の現況

- (1) 三鷹高等学校の敷地面積は31,072㎡、校舎面積は16,055㎡、屋外運動場は15,017㎡である。校舎棟は、昭和37年建築（平成13年耐震補強工事实施）の北棟、昭和57年建築の中棟、昭和58年建築の南棟の3棟からなっている。プールは昭和45年、格技場は昭和39年、体育館は昭和58年の建築である。
- (2) 交通機関としては、JR中央線三鷹駅・吉祥寺駅、京王線仙川駅・調布駅いずれの駅からもバスを利用し、三鷹高校前バス停から徒歩1分の場所にある。
- (3) 学校周辺は、大学病院、大学学生寮、公務員官舎、テニスコート、公園などに囲まれており、緑の多い比較的落ち着いた環境である。

3 施設の基本計画

(1) 施設整備方針

三鷹地区中高一貫6年制学校への改編に伴う施設整備については、現行の三鷹高等学校を利用することを基本としつつ、充実した学習指導を行うにあたり、6年間を見通した教育課程を展開する上で必要となる講義室の設置等、学習環境の改善のための改修等を行う必要がある。

(2) 主な施設・設備の整備内容

① 講義室の整備

生徒の習熟の程度に応じた少人数授業による補足的な学習や発展的な学習を積極的に展開したり、特色ある選択教科・科目を設置するため、複数の講義室を整備する。

② 自習室の整備

自ら学び考える生徒を支援し、読書活動や自学自習を推進するための環境作りに向け、自習室を整備する。

③ 前期教育課程を実施するための施設・設備

現行の三鷹高等学校校舎を活用し、前期教育課程に必要な施設の整備を行う。

【参考資料目次】

- 参考1 三鷹地区中高一貫6年制学校基本計画検討委員会・専門部会審議経過…………… P24
- 参考2 三鷹地区中高一貫6年制学校基本計画検討委員会設置要綱…………… P25
- 参考3 三鷹地区中高一貫6年制学校基本計画検討委員会・委員名簿…………… P26
- 参考4 三鷹地区中高一貫6年制学校基本計画検討委員会専門部会設置要綱…………… P27
- 参考5 三鷹地区中高一貫6年制学校基本計画検討委員会専門部会・委員名簿…………… P28
- 参考6 中高一貫教育校の整備に関する検討委員会報告書（抄）（平成14年4月）…………… P29

参考1 三鷹地区中高一貫6年制学校基本計画検討委員会・専門部会審議経過

18年	7月	第1回検討委員会第1回専門部会合同委員会 *設置要綱について *検討スケジュールについて *中高一貫教育に関する検討経過等について *基本的枠組について *基本方針について *その他
	9月	第2回専門部会 *基本的枠組について *基本方針について *その他
		第2回検討委員会第3回専門部会合同委員会 *基本的枠組について *基本方針について *その他
	10月	第4回専門部会 *基本方針について *教育課程について *その他
第3回検討委員会第5回専門部会合同委員会 *基本方針について *教育課程について *その他		
12月	第6回専門部会 *基本方針について *教育課程について *その他	
	第4回検討委員会第7回専門部会合同委員会 *基本方針について *教育課程について *その他	
19年	1月	第8回専門部会 *教育課程について *施設・設備の整備について *その他
	2月	第5回検討委員会第9回専門部会合同委員会 *教育課程について *施設・設備の整備について *「中間のまとめ」の教育委員会への報告及び学校説明会での意見について *その他

参考2 三鷹地区中高一貫6年制学校基本計画検討委員会設置要綱

(設置)

第1 三鷹地区中高一貫6年制学校の基本計画を検討するため、東京都教育委員会に「三鷹地区中高一貫6年制学校基本計画検討委員会」(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第2 委員会は、次に掲げる事項について具体的に検討し、その結果を東京都教育委員会教育長(以下「教育長」という。)に報告する。

- (1) 学校の設置形態に関すること。
- (2) 教育課程の編成及び教育内容・方法に関すること。
- (3) 施設・設備に関すること。
- (4) その他検討を要すること。

(構成)

第3 委員会は、東京都教育庁(以下「教育庁」という。)関係者、東京都立高等学校関係者、関連区市町村教育委員会関係者、都内公立中学校関係者、都内公立小学校関係者のうちから、教育長が任命又は委嘱する者をもって構成する。

2 教育庁関係者の委員及び東京都立高等学校関係者のうち校長の委員は、別紙の職にある者をもって充てる。なお、東京都教育庁参事の職にある者のうち、都立高校改革推進を担当職務とする者については、東京都教育庁都立高校改革推進担当部長の職にある者と見なす。

(委員長等)

第4 委員会に委員長を置き、教育庁学務部長の職にある者をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰し、会務を総括する。

3 委員会に副委員長を置き、教育庁指導部長の職にある者をもって充てる。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長が不在のときは、その職務を代理する。

(設置期間)

第5 委員会の設置期間は、委員会が設置された日から平成19年3月31日までとする。

(専門部会)

第6 委員会に、専門的事項を調査検討するための専門部会を置くことができる。

(意見聴取)

第7 委員会は、必要に応じて学識経験者等の意見を聴取することができる。

(会議及び会議記録)

第8 委員会の会議は、原則として非公開とする。ただし、委員会の会議要旨と会議資料については、原則として公開するものとする。

(庶務)

第9 委員会の庶務は、教育庁学務部高等学校教育課及び教育庁指導部高等学校教育指導課が担当する。

(その他)

第10 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関する事項は、委員長が定める。

附 則

この要綱は、平成18年4月18日から施行する。

別 紙

東京都立三鷹高等学校長

東京都教育庁学務部長

東京都教育庁学校経営指導・都立高校改革推進担当部長

東京都教育庁人事部長

東京都教育庁指導部長

参考3 三鷹地区中高一貫6年制学校基本計画検討委員会・委員名簿

	氏 名	現 職	備 考
学 外	大西 直樹	国際基督教大学教養学部人文学科長	
	島野 浩二	三鷹商工会会員	
	石崎 方俊 ^{みちよし}	同窓会代表	
市教委	貝ノ瀬 滋	三鷹市教育委員会教育長	
学 校 関 係 者	土肥 信雄	東京都立三鷹高等学校長	
	横山 正彦	三鷹市立第五中学校長	
	大沼 啓子	三鷹市立東台小学校長	
都 教 育 庁 関 係 者	山川 信一郎	東京都教育庁学務部長	委員長
	新井 清博	東京都教育庁参事（学校経営指導・都立高校改革推進担当）	～H18. 7. 15
		東京都教育庁学校経営指導・都立高校改革推進担当部長	H18. 7. 16～
	松田 芳和	東京都教育庁人事部長	
	岩佐 哲男	東京都教育庁指導部長	副委員長

参考4 三鷹地区中高一貫6年制学校基本計画検討委員会専門部会設置要綱

(設置)

第1 三鷹地区中高一貫6年制学校基本計画検討委員会設置要綱第6に基づき、三鷹地区中高一貫6年制学校の教育課程、施設・設備等の専門的事項に関することを検討するため、専門部会を設置する。

(所掌事項)

第2 専門部会は、三鷹地区中高一貫6年制学校基本計画に関し、次に掲げる事項について専門的、具体的に検討し、その結果を三鷹地区中高一貫6年制学校基本計画検討委員会（以下「委員会」という。）に報告する。

- (1) 中等教育学校又は併設型中高一貫教育校の学校の設置形態に関すること。
- (2) 設置する教科・科目など教育課程の編成及び教育内容・方法に関すること。
- (3) 施設の配置、特色など施設・設備に関すること。
- (4) その他検討を要すること。

(構成)

第3 専門部会は、東京都教育庁（以下「教育庁」という。）関係者及び東京都立三鷹高等学校関係者のうちから、東京都教育委員会教育長が任命する者をもって構成する。

(部会長等)

第4 専門部会に部会長を置き、教育庁学務部都立高校改革推進担当課長の職にある者をもって充てる。なお、教育庁学務部副参事の職にある者のうち、都立高校改革推進を担当職務とする者については、教育庁学務部都立高校改革推進担当課長の職にある者と見なす。

- 2 部会長は、専門部会を主宰し、会務を総括する。
- 3 専門部会に副部会長を置き、教育庁指導部高等学校教育指導課長の職にある者をもって充てる。
- 4 副部会長は、部会長を補佐し、部会長が不在のときは、その職務を代理する。

(設置期間)

第5 専門部会の設置期間は、専門部会が設置された日から委員会に最終報告する日までとする。

(意見聴取)

第6 専門部会は、必要に応じて学識経験者等の意見を聴取することができる。

(会議及び会議記録)

第7 専門部会の会議は、原則として非公開とする。ただし、専門部会の会議要旨と会議資料については、原則として公開するものとする。

(庶務)

第8 専門部会の庶務は、教育庁学務部高等学校教育課及び教育庁指導部高等学校教育指導課が担当する。

(その他)

第9 この要綱に定めるもののほか、専門部会の運営に関する事項は、部会長が定める。

附 則

この要綱は、平成18年4月18日から施行する。

参考5 三鷹地区中高一貫6年制学校基本計画検討委員会専門部会・委員名簿

	氏 名	現 職	備 考
学 校 関 係 者	きん じょう 金 城 和 貞	東京都立三鷹高等学校副校長（全日制課程）	
	橋 村 郁 美	東京都立三鷹高等学校経営企画室長	
	山之内 敏 浩	東京都立三鷹高等学校主幹	
	荻 部 勇 男	東京都立三鷹高等学校主幹	
	澤 崎 はるひこ 陽 彦	東京都立三鷹高等学校主幹	
教 育 庁 関 係 者	前 田 哲	東京都教育庁学務部高等学校教育課長	
	児 島 京 子	東京都教育庁学務部副参事（都立高校改革推進担当）	～H18. 7. 15 部 会 長
	坂 本 博 文	東京都教育庁学務部副参事（都立高校改革推進担当）	H18. 7. 16～ 部 会 長
	坂 本 和 良	東京都教育庁学務部副参事（入学選抜担当）	
	内 田 光 夫	東京都教育庁学務部施設調整担当課長	
	内 藤 敏 也	東京都教育庁学務部義務教育心身障害教育課長	
	鈴 木 邦 彦	東京都教育庁人事部人事計画課長	
	大 江 近	東京都教育庁指導部義務教育心身障害教育指導課長	
	上 原 一 夫	東京都教育庁指導部主任指導主事（教育評価・道徳教育担当）	
	高 野 敬 三	東京都教育庁指導部高等学校教育指導課長	副部会長
	宮 本 久 也	東京都教育庁指導部主任指導主事（高校教育改革担当）	

中高一貫教育校の整備に関する検討委員会報告書（抄）（平成14年4月）

第3章 都が中心となって整備する中等教育学校及び併設型中高一貫教育校の整備の考え方

1 基本的考え方

(1) ねらい

中高一貫教育の中で、教養教育を行い、子どもの総合的な学力を培うとともに、個の確立を図り、個性と創造性を伸ばす。また、使命感・倫理感、社会貢献の心、日本人としてのアイデンティティなど社会的な役割についての認識を深め、国際社会に生き、将来の日本を担う人間として求められる資質を育てる。このような中高一貫教育を行う中で、社会の様々な場面、分野において人々の信頼を得てリーダーとなり得る人材を育成する。

(2) 教養教育についての考え方

① 教養及び教養教育の必要性

社会全体に目的喪失感や閉塞感が漂い、学ぶことの目的意識が見失われる時代にあって、自らの置かれている状況を見極め、今後進むべき目標を考え、目標実現のために主体的に行動する力（教養）を持たなければならず、このような教養を身に付けるための教育を行う必要がある。

② どのように教養を培うか

子どもの発達上、自立心を高め、自己のアイデンティティを確立する上で重要な時期に、6年間の一貫した教育を行うことにより、主体的に学ぶ態度・意欲をもち、知識を体系的に獲得しつつ、総合的な学力を培うとともに、将来の進路の実現に向けた夢と高い志の育成や得意分野の伸長など、「自立に向けた教育」を行う。これらにより、社会的自立に向けた発達と知性の獲得との調和の中で豊かな教養を培う。

③ 具体的内容

教養教育は、もとより中学校・高等学校においても行うべきものであるが、中等教育学校及び併設型中高一貫教育校においては、6年間を通じた学校設定科目の開設等、ゆとりや継続を生かした教育活動を展開するものであり、次のような教育内容が考えられる。

(ア)社会とのかかわりを大切にし、インターンシップや長期の団体・集団活動、社会奉仕活動等の様々な体験活動等を通して人間としての在り方生き方の指導を充実させる。

(イ)普通科目及び専門科目を含め多様な科目を設置するなど、個性や創造性の伸長、使命感の育成等を図る教育課程を編成する。具体的には、例えば、次のような学校設定科目等を設定し、6年間を通じた教育の推進を明確にする。

a)世界の中の日本人としてのアイデンティティを確立するための「日本と国際社会」

b)科学技術が社会に及ぼす影響に関する理解を深めるための「科学技術と社会」

c)社会貢献を行うために求められる判断力、行動力、洞察力などを育てる「社会貢献論」

今後、別紙1の教育課程編成の基本方針及び別紙2の教育課程の概要により示した教養教育の具現化例を参考にしつつ、教養教育の具体的内容の検討を行う。

(3) 学校の在り方

教養教育を重視しながら、各校の特色化を図っていくこととし、その中で、例えば、

(ア) 思想、哲学、政治、経済、歴史等の学びを通して自らの考えを確立し、日本の政治、経済、司法、医療、福祉等のそれぞれの分野において在るべき姿や今後取り得る方向性について明確な進路を示し得る人間や人類に貢献し得る人間の育成を目指す教育

(イ) 外国語によるコミュニケーション能力を有し、我が国の文化・伝統等を理解するとともに、世界の多様な文化を理解し尊重する姿勢を持ち、世界を舞台に活躍し得る人材の育成を目指す教育

(ウ) 自然科学への理解や科学技術に関する幅広い基礎的な能力を身に付け、将来、研究者、技術者として我が国の科学技術水準の向上に寄与し得る人材の育成を目指す教育

などを重点的に行う学校（又はその一部のクラス）を設置する。

(4) 大学との連携・接続

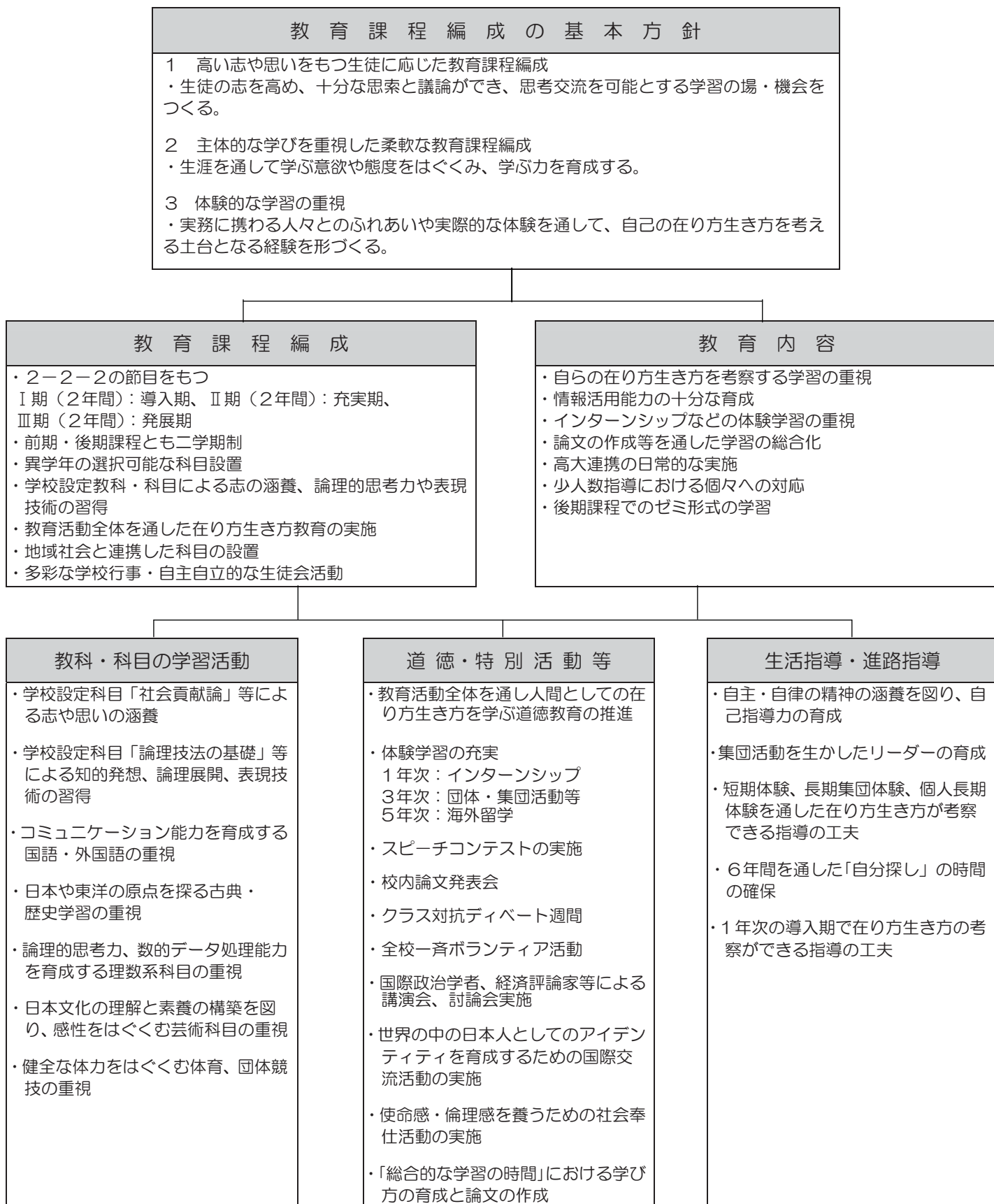
在学中に大学レベルの教育にふれる機会を提供するため、また、卒業後引き続き大学において、豊かな教養を身に付け、個性や創造性を伸ばす教育を受けることができるようにするため、大学、特に、新たな都立の大学との連携・接続を積極的に図っていく。

2 規模及び配置等（略）

3 入学者決定方法等(略)

4 教員に関する事項（略）

教育課程編成の基本方針（教養教育の具現化例）



教育課程の概要（教養教育の具現化例）

別紙2

区分 節目	教育活動の特徴 (社会的自立と知性の獲得との調和)		特色ある学校設定科目等		教科・科目の 学習活動	道徳等	特別活動等	総合的な 学習の時間	生活指導 (進路指導)
	志や思いの育成	弁論技法の育成							
6年	<ul style="list-style-type: none"> 6年間の学習の総合化を図る。 将来の進路について決定し、その実現に向けて具体的に準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校設定科目「社会貢献論」、「リーダー論」 ・一団体、一人の活動についての考察 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校設定科目「論理技法の基礎」 ・論文の作成方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ学習 原典の輪読により、思想・哲学について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民科、ホームルーム活動を中心に、人間の在り方生き方について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・論文発表会 ・生徒会活動の後見 	<ul style="list-style-type: none"> ・論文作成 自ら設定した研究主題に関する論文の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者とのかわわりを通じた自己指導力の向上 ・進路実現への準備 	
5年	<ul style="list-style-type: none"> 異文化とのふれあいを通じて日本文化の理解を深め、アイデンティティの確立を図る。 進路・職業について情報の収集と活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校設定科目「社会貢献論」、「リーダー論」 ・社会貢献の意義・実践力について ・リーダーの資質・能力について 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校設定科目「論理技法の基礎」 ・プレゼンテーション技術の習得 ・データ分析Ⅱ ・ディベートⅡ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ学習 原典の輪読により日本の自然観・人間観について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民科、ホームルーム活動を中心に、自己と他者の在り方について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人企画海外留学（3ヶ月） ・個人体験発表会 ・生徒会活動の中心 ・ディベート大会 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究主題の設定 自ら研究主題を設定し、文献、実務体験から学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己指導力の確立 ・希望進路決定に向けて 	
4年	<ul style="list-style-type: none"> 様々な追体験により使命感を育成する。 自己の特性を認識し、進路計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校設定科目「社会貢献論」、「リーダー論」 ・社会貢献とは ・リーダーとは 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校設定科目「論理技法の基礎」 ・論理展開技法の習得 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の学習を通して日本文化の理解を深める。 ・近現代史のテーマ学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民科、ホームルーム活動を中心に、自己の在り方生き方について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の中心 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの在り方生き方について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己指導力の確立に向けて 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献について体験的に学ぶ。 将来の希望や志をはぐくむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○その他教科「私と社会」 ・社会とのかわわり ・偉人・賢人の生涯 	<ul style="list-style-type: none"> ○その他教科「考える」 ・分析と総合 ・レトリック基礎 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史の学習を通して世界の中の日本を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳 集団や社会とのかわわりを重視して学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集团的体験学習の実施（1ヶ月） ・集団体験発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際事情、国際政治、思想等について自らの考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自律的學校生活の確立 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な学習の定着を図り、学び方を学習する。 職業観・勤労観を育成し、自己の適性の意識化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○その他教科「私と社会」 ・権利と義務、自由と責任について ・ボランティア活動について 	<ul style="list-style-type: none"> ○その他教科「考える」 ・データ分析Ⅰ ・ディベートⅠ 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題選択学習等を通して選択能力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳 自分自身、他人とのかわわりを重視して学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチコンテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際事情、国際政治、思想等について課題を調べ、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自律的學校生活の確立に向けて ・生徒会や委員会との連携 	
1年	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な学習の定着を図る。 進路について探索し、将来の生き方に対する希望を明確にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○その他教科「私と社会」 ・社会における一人一人の役割 ・将来の目標設定について 	<ul style="list-style-type: none"> ○その他教科「考える」 ・情報収集の技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・上級学年の授業に参加し、学び方学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳 感動を与え、実践力を高める資料の開発を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ等 短期体験学習の実施（1週間） ・短期体験発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な分野の学際的な学問の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・礼儀、基本的生活習慣の確立 ・家庭での指導との連携 	
備考		<ul style="list-style-type: none"> ・6年間を通して志や思いを高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6年間を通して技法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年選択を可能とする。 ・基礎的、基本的な学力の確実な定着を図る。 ・高大連携を様々な場面で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全体を通して道徳教育を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都立中等教育学校合同 体育祭の実施 ・ボランティア活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年の学習を可能とする。 		